

## 第 8 回 SC 委員長会議報告

下記の内容で第 8 回 SC 委員長会議が開催されました。

日 時： 2006 年 7 月 20 日（木）13:30～17:00

場 所： 電気学会 第 1, 2 会議室

出席者： 各 SC 国内分科会委員長, JNC 委員長, 副委員長, 幹事団他

議事内容：

### (1) 開会挨拶

冒頭、林委員長より、B4 林委員長ご逝去に関し、これまでの CIGRE 活動へのご尽力に対する感謝の意が表された。また、8 月のパリセッションに向け、各 SC ともご準備頂いていると思うが、是非存分にその成果を発揮し、貢献頂ければ幸いとのこと挨拶があった。

### (2) 本部執行委員会議事概要について（林委員長）

5 月 11 日にレイキャビク（アイスランド）で開催された本部執行委員会でのポイントが紹介された。

- ・ 大半の SC は目的に沿った形で活動が進められている。（新技術は D1 のみでは困難であり、各 SC の協力が必要。C2, C3 は、SC 委員長交代に期待）
- ・ 技術情報を広く知っていただくため、ELECTRA に各 SC の活動状況を掲載。
- ・ WG は数が多ければいいということではなく、中身を精査する必要あり。
- ・ SC メンバは 2 年ごとに更新、不活発なメンバは交代してもらうことになる。
- ・ 財務状況はほぼ予定通りであり、会費は現状維持。
- ・ Executive Committee を Steering Committee に改称。
- ・ 執行委員会委員は会員数が多い NC から 12 議席、残り 3 議席を理事会で投票。
- ・ CIGRE ブランド認知度向上、会員増加策等を織り込んだ Master Plan を改定。

### (3) AORC 会議開催について（服部幹事）

- ・ 5/24 にソウルにて AORC の Technical Meeting (EHV Transmission Live-line Maintenance のシンポジウムと併設) が開催された。
- ・ AORC メンバ国の発表はないが、Koo 議長は AORC の正式会議であると強調。
- ・ 2006 年パリ大会での AORC 理事会に、以下を議題として提案することとした。次期議長について（韓国からオーストラリアに変更する方向で調整）
- ・ 2007 年の AORC ミーティング開催の日本開催（大阪シンポジウムの直前）
- ・ 活動の活発化（インド、中国の AORC 参加呼びかけ）

### (4) パリ大会の準備状況について（塩沢幹事）

- ・ 早期申込による登録は 60 名、通常申込の JNC 期限は 7/28。

- ・日本主催パーティの外国人招待客への招待状は発送済み（270 名程度）
- ・日本人控室の部屋番号は「233M」となっており、8/27（日）AM に開設予定。

(5) パリ大会日本優秀論文（加藤幹事）

役員会にて、下記の論文を最優秀論文、優秀論文として決定した旨を報告。

最優秀論文(D1):「New development for detecting partial discharge using an UHF method and its application to power apparatus in Japan」

優秀論文（A2）:「A new technique for diagnosing internal abnormalities in oil-filled transformers」

優秀論文（B1）:「Demonstration and verification test results of 500-m HTS power cable」

(6) 2007 年シンポジウム準備状況について（シンポジウム実行委員会幹事会 西上氏）

- ・2007 年 11 月 1 日（木）～4 日（日）の 4 日間、大阪にてシンポジウムを開催。併せて、B1, B4, C1 の SC 定例会議を開催。（C5 は SC 会議は開催しないがシンポジウムに協力）
- ・Call for Paper は 6 月末に CIGRE ホームページに掲載済み。
- ・パリ大会期間中（9/1）に CIGRE 本部と役割分担、予算等について打合せ実施予定。

(7) 2009 年 SC ミーティング日本開催について（三島幹事）

- ・2009 年の SC ミーティング日本開催は、予算の関係もあり、最大 2SC とする。  
 <A2>本部は南アフリカに決めたい意向。2011 年はヨーロッパ開催年であるが、JNC から正式なインビテーションレターを出せば日本開催可能な状況。  
 <B5>日本が韓国より先に名乗りを上げており、2009 年日本開催の可能性は高い。  
 <D2>対抗馬の南アはパリ大会の論文もなく、日本開催に向け前向きに取り組みたい。

(8) 各 SC からの報告と質疑（各 SC 国内分科会委員長または代理）

資料に基づき報告があった。主な議事は下記のとおり。

A1：宮池委員長（東芝）

- ・2007 年 SC ミーティングは韓国に決定。2009 年はオーストラリアか中国。アジアが続くと 2011 年の日本開催の可能性は低くなる。  
 →アジアは活動が活発であり、AORC のテーマとしてもいいのではないか。

A2：白坂委員長（日本 AE パワーシステムズ）

- ・A2 では SC ミーティングの開催国を相当先まで決める慣習があり、事務局から 2011 年日本開催を提案してきており、パリ大会前に JNC から正式な招待状が出せれば 2011 年の日本開催は決まると思われる。

A3：伊藤委員長（三菱電機）

- ・2002 年の SC 再編以降、変圧器を除く全変電機器を扱っている。
- ・NA 枠を利用した新しい国、並びに WG からの論文採択数が増加しており、日本論文の採択が困難となってきている。新しい国からの論文の質に問題はないか。  
 →新規性がなく先進国で数十年前に検討された内容が含まれ、質的に課題がある。

B1：佐久間委員長（ビスキャス）

- ・特に共同溝など日本に注目が集まっている。地中線の分野は電力会社に期待するとこ

ろが大きいため、今回のパリ大会への参加など積極的な協力をお願いしたい。

- ・WG への日本の参加はほとんどコレスポンディングメンバとなっており、各企業から協力を頂くのが困難な状況。
- ・AORC を 2007 年の SC ミーティングと合わせてできないか。  
→SC ミーティングと同時にやるのは厳しい。

B2：深海委員長（東北電力）

- ・SC ミーティングは、2007 年はフィンランド、2009 年は韓国、2011 年は欧州となっている。1997 年に日本で開催しており、現段階で日本開催の予定はない。
- ・2007 年に AORC はどうか。  
→過去に 2 回やっており、今回はやらない方向。

B3：小林委員長（東京電力）

- ・スペシャルレポートの質問がユーザに向けたものが多く、コントリビューションは電力会社を中心に対応している。
- ・Strategic AG の下に WG を 5 つの Advisory Area（AA1～AA5）に再編成した。
- ・1 つの WG を除き日本からメンバを出している。

B4：高崎委員長（電力中央研究所）

- ・国内分科会に委員に加えエキスパートとして 4 名参加いただいている。  
→CIGRE ブランドの向上の観点からもいい方法であり、D2 も採用したい。  
→本部へもエキスパート登録した方が良いのではないか。レギュラーメンバと同格であり、レギュラーミーティングにも出席できる。
- ・今回のパリ大会でポスターセッションを試行する。
- ・国内分科会の中に、2007 年シンポジウムへの対応体制を作り対応している。

B5：竹内委員長（中部電力）

- ・WG はコレスポンディングでの参加だが、作業分担を割り当てられ、しっかり活動している。
- ・2009 年は SC ミーティングを日本開催できるよう頑張る。

C1：白銀委員長代理（関西電力）（八木委員長欠席のため代理出席）

- ・八木委員長の異動に伴い、今後、実質は白銀氏が代行する。
- ・2005 年完了予定の WG は、2006 年パリ大会の SC ミーティングで成果発表予定。
- ・ESCJ で連系線プロセスの客観的指標を検討中。参考となる WG はあるか。  
→W1-7 が関係するかもしれない。
- ・レポートは自由に見られるのか。  
→パスワードがあり、メンバのみ閲覧可能。ただし、どうしても見たいものがあれば本部委員長と相談。Publish されれば、個人会員なら見られる。

C2：杉原委員長（中国電力）

- ・2007 年の AORC のテーマを検討している。論文が集まるように考えている。
- ・SC ミーティングの日本開催予定はなし。

- ・本部委員長の了解のもと、国内 HP にパリ大会論文抄訳を掲載している。

C3：中神委員長（関西電力）

- ・3つのWGが立ち上がるが、主査、メンバを募集中。分散型WGにメンバを出すべく候補者を絞り込み中。EMFWGにもメンバを出す方向で調整中。  
→WG07（EMF）は注視していく必要があり、WGにも参加する方向で検討のこと。
- ・SCミーティングの日本開催予定はなし。

C4：新藤委員長代理（電力中央研究所）（石井委員長欠席のため代理出席）

- ・国内分科会の中に、品質・EMCと雷・絶縁協調の2つの小委員会を設置し議論することとした。C4はWGが多いが、全てアクティブに活動している。
- ・AORCへの参加の予定はあるか。  
→現段階で計画はない。
- ・SCミーティングの日本開催予定はなし。

C5：内藤委員長（電力系統利用協議会）

- ・WG3が新主査の下、活動再開の動きがある。現在、新たなTORが各国に送られている状況。ただし、WG7と重複すると思われる部分もあり調整が必要。
- ・SCミーティングの決定が遅く、今後の予定は未定。

C6：小田切委員長（東京電力）

- ・新たに、マイクログリッド標準化、アクティブ配電に関するWGを立ち上げ。
- ・農村電化のWGはSC37で精力的にやっていたが、それとWG13との関係は？  
→そこからの流れを受けている。コンビナーがさぼっていたため更迭された。
- ・2007年はマレーシアでSCミーティング開催予定。当面、日本開催予定はなし。

D1：長尾委員長（豊橋科学技術大学）

- ・活動全体を討議するSAGと他のSC Chairmanを加えたCAGを発足。
- ・先進技術を積極的に取り組み、活動範囲を拡大していく方向。
- ・2007年SCミーティングは韓国かベルギーであり、日本開催はまだ先と思う。
- ・風力発電については材料の面からの検討を行うのか。  
→雷害に注目しており、材料中心になると思われる。

D2：岩崎委員長代理（九州電力）（山崎委員長欠席のため代理出席）

- ・2ブロードバンドとモバイルが中心で新TFを立ち上げる。
- ・2009年SCミーティングの日本開催を指向しており、福岡でやりたい。

(9) その他

A2の2011年SCミーティング日本開催に向け、パリ大会前にJNC委員長名で正式なインビテーションレターをA2本部委員長宛に送付することとする。

(10) 閉会挨拶

田井副委員長より、パリ大会に向けしっかり準備・チャレンジして積極的に貢献していただきたいとのご挨拶があった。

懇 親 会： 17:30～19:00 アルカディア市ヶ谷にてパリ大会日本優秀論文の表彰式および懇親会を実施した。

以 上